

宮崎大学、東海大学および南九州大学の大学連携支援プログラムにおける
ティーチング・ポートフォリオへの取り組み

目次

1. はじめに
2. 本プログラムでティーチング・ポートフォリオに取り組む目的
3. ティーチング・ポートフォリオの構成
4. ティーチング・ポートフォリオの作成
5. ティーチング・ポートフォリオに含める項目
6. ティーチング・ポートフォリオの目次
7. ティーチング・ポートフォリオの更新

1. はじめに

昨今、大学教員は研究成果だけでなく、自らの教育に対する説明を求められる機会が増加しています。講義室の中で行われる講義は閉鎖的になりやすく、教員も自らの教育活動を積極的に社会に公開しようとはして来ませんでした。このことに対する原因の一つには、従来、研究者として研究成果や論文が評価されても、教育者として教育活動の成果に対する評価があまり重要視されて来なかったことが考えられます。また、多くの大学では学生による授業アンケートが主な授業評価方法として用いられてきましたが、これは教員の声の大きさ、板書、シラバスなどの講義パフォーマンスに関する評価が中心で、講義に対する工夫や改良点、経年的変化については授業アンケートだけではこれだけでは不十分と考えられます。さらに、大学では初等・中等教育のように学習指導要領がないことも多様な講義を一定の基準で評価することの難しさの一因と考えられますが、その反面、教員の個性が大きく反映された独創的な講義が出来るというメリットもあります。ティーチング・ポートフォリオでは、教員が自らの教育活動の成果を様々な根拠に基づいてまとめるため、学生アンケートの結果だけでなく教員の教育に対する取り組みや成果などの教育活動のすべてを対象にすることが出来るので個人の工夫や成果を反映させることが可能となります。さらに、ティーチング・ポートフォリオは教員が自らの教育活動の改善や成果を記録として提示できるようになるだけでなく、大学が社会に対して教育活動を説明していくためにも非常に有用な手段であると考えられます。

2. 本プログラムでティーチング・ポートフォリオに取り組む目的

学生が誤りを訂正するためにフィードバックを必要とするように、教員も教育活動を改善していくためには自らの教育を振り返ることが必要です。ティーチング・ポートフォリオを作成する意義は、自らの教育活動を振り返り分析することにより効果的な教育改善を行い次の教育実践に活かすことが出来る点にあります。

本プログラムでは、ティーチング・ポートフォリオを取り入れることで教員が授業改善に取り組むことで、その成果を本プログラムにおける教育活動に生かしていくことを目的としています。また、これが全学的なティーチング・ポートフォリオ取り組みへのモデル的な存在になればよいと考えています。

3. ティーチング・ポートフォリオの構成

教育の責任	何をやっているのか
教育の理念	なぜやっているのか 価値観 信念 希望 偏り
教育の方法	どのようにやっているのか
教育の目的と目標 (教師としての目標)	(学生に求めること、学生に対する期待)
・知識や技術の伝達方法	・学生の専門能力の向上
・学生との接し方	・学生の人間的成長
・自らの専門分野における教師としての成長や発展	
・効率	
教育実践 (教育実践)	
・シラバス	・課題、試験
・教科書の選定、テキスト	・学習方法
・双方向的な学習	・webの利用
・講義スタイル	
教育の成果	どうであったか
根拠資料(学生の授業評価、学生の提出物や成果物、同僚からの評価)	
改善への努力と今後の目標	
・目標に対する自分の課題	
・課題の解決方法と計画	
・今後の計画	

4. ティーチング・ポートフォリオの作成

ティーチング・ポートフォリオを作成する際には、まず自らの根底にある教育理念を考察し、次にその理念から発する教育の戦力と方法論（なぜ行うのか、何を行うのか）を記述します。その上で教育活動と成果についての確かな根拠を示す文書や資料を選ぶという順序で行うのが最良です。

ティーチング・ポートフォリオに記す内容は精考された 8～10 ページの文章とそれを裏付ける添付資料があれば十分で、読むのに過度の時間や労力を必要としないように配慮する必要があります。

(1) 計画を立てる

どのような目的で作成するのか、あるいは誰が読むのかによって盛り込む内容が異なります。そのため、予めポートフォリオの作成する目的や読み手を念頭に置いておく必要があります。また、読み手はどのような根拠資料を期待しているか、どのような資料が最も説得力を持つか、誰にどのような情報提供を求めるかなどを考えながら計画を立てます。

(2) 教育面での責任を要約する

一般的に、ポートフォリオの冒頭部分には、教師として何に責任を負っているかを明確にし、自分が現在あるいは過去数年間に担当した科目に関して 2～3 パラグラフで説明します。これは以降の内容の枠組みとなります。

(3) 教育の理念や戦略を説明する

これは、通常ポートフォリオのなかで最も長い部分になります。(2) で説明した教育面での責任を基にしながら自分の教育の理念、目的、方法論、戦略について 2～3 ページでまとめます。自分が教室で何を何故おこなっているのか、という観点から教育に対する責任をどのように果たしているのかを説明します。

(4) ポートフォリオに組み込む項目を選ぶ

自分が教師として負っている教育に対する責任と教育アプローチを説明するのに最も適した項目群を選びます。項目の選択にはポートフォリオ作成者の個人的な好み、教育のスタイル、学問領域、担当している科目の特徴が反映されますが、ポートフォリオを作成する目的や読み手によっても変わります。また、所属する機関が項目を定めている場合もあります。

(5) 各項目の説明と裏付けデータの整理

各項目に関する活動や成果について記述します。ポートフォリオで言及あるいは主張した項目にはすべてそれを裏付ける根拠資料が必要になります。これらは本文中で引用、あるいは添付資料にします。

(6) 各項目を順序良く配置する

成果に関する記述の順序はポートフォリオの使用目的によって効果的な順序が異なります。

(7) ファイルに綴じる

リングファイルなどを使用すれば、後々の更新作業が行いやすくなります。

ティーチング・ポートフォリオはメンターとの共同作業によって作成されることが好ましいですが、身近にメンターとなる人物がいない場合には以下の項目に注意しながら作成します。

- ・内容は十分に内省的なものになっているか
- ・自分が何を教えているか、どのように教えているか、およびどうしてそのように教えているのかが明確に記されているか
- ・本文で説明あるいは主張された内容は、全て添付資料によって裏付けされているか
- ・担当した科目に関して、学生の授業評価のデータを組み込んでいるか
- ・図、表、グラフなどを用いて自分の言及や主張内容を強化しているか
- ・成長と改善の努力が含まれているか
- ・所属する機関（学科）が教育の有効性に何らかの影響を及ぼしているか
- ・自ら作成したもの、他者から提供されたもの、学生の学習成果がバランスよく含まれているか
- ・詳細な目次と添付資料が含まれているか

5. ティーチング・ポートフォリオに含める項目

大きく3つのカテゴリーに分けられます。

(1) 自ら作成するもの

- 1) 担当する科目の説明（名称、単位数、学生数、必須科目 or 選択科目か、学部生対象 or 大学院生対象）
- 2) 教師として教育に対する責任に関する記述
- 3) 自分の教育の理念、戦略、目的、方法論を説明する記述
- 4) 2) や3) に基づいて行ってきた教育活動や指導上の創意工夫やその有効性に関する説明と、関連する資料や教材
- 5) 教育に直接貢献する研究や教育活動への参加に関する記述
- 6) 教育に関する補助金等の獲得に関する説明

など

(2) 他者から提供されるもの

- 1) 学生による授業/指導評価のデータ
- 2) 卒業生の意見
- 3) 自らの教育活動に対する外部からの発表依頼や講演依頼の書類

- 4) 自らの教育活動に対して与えられた賞
- 5) 大学院に進んだ学生の学力に関する他大学の教員からの評価
- 6) 自らの教育活動や教材（講義シラバス、課題、読書課題リスト、試験と成績評価の根拠など）を体系的に検討した同僚からの評価

など

(3) 教育/学習の成果を示すもの

- 1) 学生の習熟度の変化を示す根拠として、(受講前と) 受講後の試験の成績
- 2) 学生の小論文、フィールドワークの報告書、実験室の活動記録
- 3) 「優秀」、「平均的」、「平均以下」の評価を付けた学生のレポートの例
- 4) 自分の指導のもとで学生が行った発表や出版物の記録
- 5) 学生の就職や大学院への進学を実現するために支援したことを示す根拠

など

6. ティーチング・ポートフォリオの目次

(1) 作成する目的によって組み込む内容は異なりますが、教育改善を目的として作成する場合、主な目次は以下のようになります。

<p>ティーチング・ポートフォリオ</p> <p style="text-align: right;">作成日：○年○月○日</p> <ul style="list-style-type: none">・教員氏名・所属大学、学部、学科・作成日 <p>(目次)</p> <ol style="list-style-type: none">1. 教育の責任2. 教育の理念3. 教育の目的、戦略、方法論4. 教育素材（シラバス、配布資料、課題）の説明5. 授業を改善する努力<ul style="list-style-type: none">・指導法の刷新・カリキュラムの改訂・教育に関する学会、研究会への参加6. 診断的な質問に対する学生の評価7. 学生の学習状況を示す根拠8. 短期および長期の教育目標9. 添付資料
--

(2) ポートフォリオが評価の目的で作成される場合、主な目次は以下のものが挙げられます。

ティーチング・ポートフォリオ	
	作成日：○年○月○日
・ 教員氏名	
・ 所属大学、学部、学科	
・ 作成日	
(目次)	
1) 教育の責任	
2) 教育の理念	
3) 教育の目的、戦略、方法論	
4) 総括的な質問を持ち、また複数の科目に関する学生の授業評価	
5) 他の教員または大学執行部による授業参観の講評	
6) 大学の内部または大学執行部による教材のレビュー	
7) 代表的かつ詳細な講義シラバス	
8) 学生の学習状況を示す根拠	
9) 教育に関する表彰や報奨	
10) 短期および長期の教育目標	
11) 添付資料	

《よりよいポートフォリオを作成するために》

- ・ 作成日を記す：自分の教育の理念、目的、戦略、方法論を再検討し教育活動の改善を測定する基準点を定めるのに役立つ。
- ・ 詳細な目次を作成する：読み手に情報の幅と記述内容の流れを伝える。
- ・ ページ番号を付ける。
- ・ 要点を分かりやすく示すため、一般論ではなく具体例を用いる
- ・ 学生による評価などはグラフや図表を用いて効果的に記す。また学生のコメントの記載は代表的なものに絞って数を制限する。
- ・ 他者から提供された資料については、言及する人の氏名と地位を記載する。
- ・ 添付資料のリストをつける。ファイルに綴じられない大きな資料等は、本文で簡単に説明し要求に応じて提出できる様に準備しておくといよい。
- ・ 根拠資料について説明する

7. ティーチング・ポートフォリオの更新

ティーチング・ポートフォリオの内容は時間の経過とともに変化するので、年度ごとに更新して行くのが好ましいと考えられます。普段から、ポートフォリオに入れる資料を収集するようにすれば、更新作業の手間も大幅に縮小出来ます。

【参考】

以下にティーチング・ポートフォリオに組み込むトピックの考察の助けとなる省察の手掛かりのリストを示します。（『大学教育を変える教育業績記録』より抜粋、一部改変）

省察のトピック	省察の手掛かり	文書化プロセス
自分の教育活動を支える学習と指導に関する理念	<ul style="list-style-type: none"> ・ どうして私は教師なのか。 ・ どうして私はこのような方法で教えているのか。 ・ 教育職を選んだ動機は何だったか。 ・ 優れた教師をどう定義するか。また、この定義はどのような経験に基づくのか。 ・ 学習と指導に関して何を信じているか。 ・ 学習にどのようにアプローチしているか。 ・ 学生が担当科目を終了するとき、どの様な知識を持ち、何が出来るようになってほしいと望むか。 ・ 担当科目を受講した学生にどのように変わって欲しいか。 ・ 担当科目を受講した学生に何に好奇心を持って欲しいか。 ・ 何故この教育戦略や方法を選択しているか。 ・ 何故学生にこの課題や経験をさせることを選んだか。 ・ 「教師」に代わるどのような類義語で、学生にとって現在の自分の姿、または学生にとって私がこうありたいと望む姿を表せるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育と学生に関する自分の信念を形成するのに役立つことの記述。 ・ 教育と学習に関する自分の考え方の成長と変化を示す内容。
科目の背景と説明	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何を考えているか。 ・ どれだけの期間これを教えているか。 ・ 教えている科目の学習目的は何か。 ・ 学生は学部生か大学院生か。 ・ 学生は何人か。 ・ 必須科目か選択科目か。 ・ 専攻科目かそれ以外の科目か。 ・ TAの監督をしているか。 ・ 卒業委員会の委員を務めているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 科目の名称、数、単位数、学生数のリスト ・ 成績優秀者の評価または大学院過程の指導の記録 ・ 科目の目標と目的科目のカリキュラム ・ 他の科目との関連
学習と教育の方法論／戦略の選択	<ul style="list-style-type: none"> ・ どのように考えているか。 ・ 教室の内外で何を行っているか。 ・ 学生にどのようなガイダンスを与えているか。 ・ 学生にどのようなフィードバックを与えているか。 ・ 学生の学習状況をどのように評価するか。 ・ 学生に何を読むように求めているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 科目の計画書と講義資料 ・ 学生向けに作成した科目の資料 ・ 学生の課題やプロジェクトなどの例 ・ 試験の例 ・ 学生へのフィードバック

	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだもので何をするように学生に求めているか。 ・学生に何を書くように求めているか。 ・書いたもので何をするように学生に求めているか。 ・どのような教材を準備しているか。 ・どのような試験を行うか。 	<p>の例</p>
<p>学習と教育を支援する、またはそれに情報を提供するその他の活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教室での実際の授業のほかに、教育に関連して何を行っているか。 ・助言を行っているか。 ・教科書の編集／相談を行っているか。 ・カリキュラム委員会の委員を務めているか。 ・教育に関するワークショップなどの発表者や世話役を務めているか。 ・メンターの役割を果たしているか。 ・継続的に教育活動を行っているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室外での学生の指導活動の有効性の根拠。 ・教育に関連したその他の活動の根拠
<p>学習と教育の有効性を評価および改善する努力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の教育の有効性について何を知っているか。また、それはどのようにして知ることが出来るか。 ・学生の学習状況について何を知っているか、またそれはどのようにして知ることが出来るか。 ・指導はすべての学生に行き届いているか。それとも一部の学生だけか。 ・教室での学習に影響を持ちうるさまざまな要因（能力、文化、民族、性別、学習スタイル、人種など）に敏感であるか。 ・学習に関する最新の研究を反映させて、担当科目の内容を更新する必要があるか。 ・学生たちが自分の授業について話しているのを耳にはさむとしたら、どのようなことを言ってほしいか。 ・具体的に自分の教育活動のどのような点を改善したいか。 ・教育活動の改善に関して、短期および長期のどのような目標を持っているか。 ・自分の教育活動を改善するためにどのような手段をとっているか（またはとったか）。 ・これからどのような方向に進むのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生による授業評価の結果 ・同僚による観察／評価の報告書 ・学期の中間評価の結果 ・科目の目標／目的と学生の達成状況 ・評価結果への対応 ・教育活動改善への参加 ・複数の教育方法や戦略を用いている根拠 ・教育活動の成長と変化の根拠 ・受講前と受講後の試験や態度の調査 ・自分の教育に関して任意に送られた手紙 ・教育に関する委員会への選出や指名 ・教育に関する表彰または賞 ・教育に関する終了時面接または卒業生の証言

参考文献

- 1) 「大学教育を変える教育業績記録」ピーター・セルディン著、栗田佳代子訳（玉川大学出版）
- 2) 立命館大学 新任教員対象実践的 FD プログラム受講ガイドブック